



◆お断り

今週号より、年輪に院長予定を掲載するのを中止することとしました。

年輪は病院HPにも掲載されており、不特定多数の人が閲覧可能です。昨今の社会情勢から不掲載とすることにしました。

◆新型コロナ関係

新規感染者は1万4,5千人程度となり、兵庫県でも1千人を下回るようになりました。第8波もいよいよ収束しそうで、卒業式や入学式のマスク着用も緩和されます。丸3年続いたパンデミックの終息を期待するばかりです。

◆フェイルセーフ

残念ながら、国産新型ロケットH3を打ち上げることができませんでした。記者会見でJAXA・岡田匡史プロジェクトマネジャーは「失敗」について質問され「ある種の異常を検知したら止まるようなシステムの中で健全に止まっているという状況です」と説明したところ、ある記者からそれを失敗というのではと詰問され、フェイルセーフのことを説明してもなかなか理解されなかったようです。

フェイルセーフとは間違いが起こっても安全な仕組みのことです。例えば、最近の石油ストーブやガスストーブは転倒しても自動的に火が消えるようになっていて、火災は発生しないような仕組みになっています。非常電源や新人にベテランをつけるのも一種のフェイルセーフといえます。

この度もこのシステムが働き、ロケットの打ち上げを止めることができたのです。この記者はこのことが理解できなかったのではと思いました。



いい言葉 一理に達すれば万法に通ず
宮本武蔵

ひとつのことを究めれば、すべてに役立つ智慧を得られるという意味で、職種を問わず、あてはまるのではと思っています。

神戸で一番
親切で
丁寧で
優しい医療を



◆私の本棚

・人間の死に方

医者だった父の、多くを望まない最期

久坂部羊 幻冬舎新書

著者は医師で作家。87歳で亡くなったお父さんの終末期を描いた作品。お父さんも医師であるものの医療否定主義者、まったくの不摂生。糖尿病になったも血糖値も測らず甘い物食べ放題の生活を続けながら勝手にインシュリンの量を増やして自然治癒させた。前立腺がんになっても「これで長生きせんですむ!」と叫び治療を拒否するありさま。そのお父さんを在宅で看取った顛末記。摘便の様子は抱腹絶倒であるが、過度の延命治療に警鐘を鳴らし、医師の倫理観について考えさせられる。

・副作用のないがん治療

命を延ばす電磁波温熱療法ハイパーサーミア

中村仁信 太陽出版

著者は、元大阪大学医学部放射線科教授。現在は民間病院の院長をつとめハイパーサーミアを中心にしたがん治療を行なっている。ハイパーサーミアの効果効能を症例を提示しながら具体的に解説し、治療の限界も述べてある。保険診療が認められた治療機器にもかかわらず、いまだに広く認知されているとはいいい難い治療であるハイパーサーミア治療がよく分かる内容。



慈恵会グループの職員でも
あまり知らない情報です

⑦エリーネス須磨と介護の家の違い

エリーネス須磨は自立型、
介護の家は要介護型、の老人ホームです。

したがって、入居時に介護が必要なお年寄り
は介護の家に入居していただきます。自立の方がエリーネス須磨入居後に要介護になられたときは、ケアセンターという介護専門居室に移っていただき介護をしています。

ちなみに、エリーネスの語源は senile(老人性の)
という医学英語を反対から読んでelines(いつまでも若い)
という意味を持たせました。